

学校図書館便り

2021. 10. 4

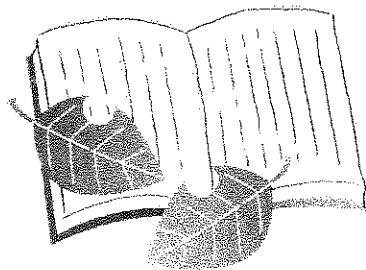
学校司書 森本 裕子

秋の色彩が濃くなってきました

◎ 本格的な秋、到来。

秋は、暑すぎず、寒すぎず、過ごしやすくさわやかな季節です。じっくりと何かに取り組むのにぴったりな季節がやってきました。みなさんも、日ごろやりたいなと思っていることを始めてみてはどうでしょう。

今のところ、コロナもやや落ち着き、部活動などもそろそろ再始動ですね。先の見えにくい時代ですが、一日一日を大切に、有意義な毎日をご過ごしてくださいね。



◎ 灯下親しむ候

「灯下親しむ候」とは、「秋になり、夜の時間が長くなってきたので、灯りをつけて、その下で本を読むのによい季節です。」といった意味です。みなさんも、夜の一刻、本を広げてみませんか。

新着図書から、少し紹介します。学校図書館へ来て、チェックしてみてくださいね。



『セーラー服と機関銃 その後—卒業—』(赤川 次郎)

ある日の真夜中、突然、家が壊され、命からがら逃げだした家族。これは、「地上げ」か!? その頃、18歳になった星泉は、普通の高校生として、平穏な日常を過ごしていた。そんな日々はずっと続くはずだった……。しかし、「元組長」を務めた泉は、否応なく、騒動に巻き込まれることになってしまう……。

前作、『セーラー服と機関銃』も図書館にあります。読み出したら、止まらなくなる!

『焼けあとのちかい』(半藤 一利)

著者が小学校5年生の時、日本は戦争をはじめました。太平洋戦争です。そして、戦況は次第に悪化し、人々の心はぎすぎすし、生活も厳しさを増していきます。中学2年生の3月、東京大空襲。恐ろしい体験をし、九死に一生を得た筆者が、戦争を知らない世代に伝える「不戦」を誓う絵本です。

この筆者の、終戦の日を克明に記した『日本のいちばん長い日』も図書館にあります。



『すごすぎる天気の本』(荒木 健太郎)

雨が降る直前、「雨のにおい」がすることがありますね。

あの「雨のにおい」には、実はちゃんと名前があることを知っていますか。

最近、よく聞く「線状降水帯」や、「ゲリラ豪雨」の詳しい解説もとても分かりやすい。冬までに読んでおきたいのは、雪の結晶のきれいな写真の撮り方。

とにかく、天気のいろんなことが盛りだくさんで、しかもフルカラー。

どのページからでも、面白いです!



◀ 新着紹介は裏面にもあります。見てね。 ▶

《最近の新着紹介》

『竜とそばかすの姫』 『かぐや様は告らせたい』 『大人も知らない？ふしぎ現象辞典』 『ある男』
『ゆるゆるクラゲ・プランクトン図鑑』 『人は話し方が9割』 『本当の「心の強さ」って何だろう？』
『あなたを閉じこめる「するい言葉」』 『陰陽師の解剖図鑑』 『日本の装束解剖図鑑』
『護られなかった者たちへ』 『日本史 100 人の最期 一卑弥呼から徳川慶喜までー』
『文豪ストレイドッグス 太宰治の入社試験』 『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー 2』
『日本地理データ年鑑 2021』 『三千円の使いかた』 『日本のいちばん長い日』
『海獣学者、クジラを解剖する。』